



▲直江石堤（直江堤公園・南原石垣町）

米沢遺産

未来に伝えたい
先人の挑戦と創造

第1回 選奨土木遺産

直江兼統治水利水施設群

米沢藩の礎を築いた
直江兼統の挑戦と創造

慶長5年（1600）の関ヶ原合戦で西軍側に属した上杉景勝は、翌6年8月に会津120万石から米沢30万石に減封され、米沢城を本拠とします。

当時の米沢城下は、移住した家臣団とその家族を含む数万の人々を受け入れることができず、城下町の整備は喫緊の課題でした。景勝の命を受けた直江兼統の指揮のもと、家臣団の屋敷割りや町割りが行われます。城下に収容できなかった下級武士を郊外の南原・東原（山上・花沢）に住ませ、荒地の開拓や街道の警護に当たられました。

さらに兼統は、洪水から城下を守るために松川（最上川）に直江石堤（谷地河原堤防）と蛇堤（蛇土手）を築きました。直江石堤を築く際には兼統みずから赤崩山に登り、城下や松川の地形を見渡して築堤したと伝わります。また、城下に生活用水を安定的に供給するため、御入水堰・帯刀堰（木場川）・猿尾堰を整備しました。

兼統が行った治水水利事業は、米沢藩の社会・経済基盤を安定させ、その

恩恵を永く受けることになります。これらの事業に関わる遺構は、時代を超えて生活・産業や歴史文化を支えている貴重な地域遺産として、平成20年度に土木学会選奨土木遺産に認定されました。

襲い掛かる自然災害、
その時先人たちは…

直江石堤は、その後大雨による洪水で何度か決壊しています。特に文化9年（1812）7月9日の大雨で決壊した際の修復工事は、延べ9727人もの藩士が動員された大工事で、「谷地河原御手伝川除絵図」（市立米沢図書館蔵）に詳細が記録されています。工事は9月26日に完成し、28日には前藩主上杉鷹山が修復された石堤を訪れ、家臣の手で積まれた石堤を踏むのを躊躇し、まずは手で石堤に触れて感謝の意を示したと伝わります。

近年激甚化する自然災害への対応は、本市のみならず日本中が直面している大きな課題です。直江兼統治水利水施設群は、江戸時代の米沢城下の水問題を克服してきた先人たちの挑戦と創造を今に伝えています。



▲谷地河原御手伝川除絵図（市立米沢図書館蔵）